

東京電力(株) 福島第二原子力発電所

平成20年度 不適合管理委員会報告情報(平成20年9月1日(月)分)

不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合事象が対象になります。

平成20年9月1日に不適合管理委員会で審議された不適合事象は、下記のとおりです。

区分 : 該当なし

区分 : 該当なし

区分 : 該当なし

その他 : 5 件

NO.	号機等	不適合件名	グレード	備考
1	2号機	海水熱交換器電解鉄イオン供給装置配管水張り時、同供給装置鉄イオン供給ポンプ吐出側ベント弁にシートリーク(鉛筆1本程度)が認められたため、当該弁を点検。	D	
2	3号機	海水熱交換器電解鉄イオン供給装置停止時、同供給装置電解槽ベント逆止弁にシートリークが認められたため、当該弁を点検。	D	
3	3号機	設備パトロール時、海水熱交換器電解鉄イオン供給装置のタービン建屋補機冷却系熱交換器入口流量計に指示不良(スティック)が認められたため、当該計器を点検。	D	
4	4号機	タービン建屋2階オペフロ、湿分分離器室空調ユニット(D)の結露水ドレン配管が詰まり、空調内部結露水の漏えい(約48リットル、汚染なし)が認められたため、床の拭き取り及び当該ドレン配管を清掃。	D	
5	4号機	換気空調系復水浄化ポンプ空調機の定例切替(B→A)時、送風機(B)の逆流防止ダンにおいて、動作不良(送風機停止後、ダンパが閉まらない)が認められたため、当該ダンパを点検。	D	

【凡例】

公表区分	事象の概要	主な具体例
区分	法律に基づく報告事象等の重要な事象	<ul style="list-style-type: none"> ・計画外の原子炉の停止 ・発電所外への放射性物質の漏えい ・非常用炉心冷却系の作動 ・火災の発生 など
区分	運転保守管理上、重要な事象	<ul style="list-style-type: none"> ・以下のうち、法律に基づく報告事象に該当しない軽度な場合 <ul style="list-style-type: none"> * 安全上重要な機器等の機能に支障を及ぼすおそれのある故障 * 管理区域内の放射性物質の漏えいが継続している場合 など ・原子炉への異物の混入 など
区分	運転保守管理情報の内、信頼性を確保する観点から速やかに詳細を公表する事象	<ul style="list-style-type: none"> ・計画外の原子炉または発電機出力の軽度な変化 ・原子炉の安全、運転に影響しない機器の故障 ・原子力発電設備に係わる機器に影響を及ぼす水の漏えい ・圧力抑制室等への異物の混入 ・原子力発電設備に係る業務における人の障害 など
その他	上記以外の不適合事象	<ul style="list-style-type: none"> ・日常小修理 など

【原子力発電所における不適合事象の是正管理】

原子力発電所では、設備の健全性を維持し、安全運転を継続するため、発電所設備の定期検査や運転中の巡視点検、定例試験、点検・修理等を行っております。その中で、「不適合」が発見された場合には、「不適合管理マニュアル」に基づき、必要な是正措置を講じることとしております。

* 「不適合の定義」(JEA4101-2000より)

本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)

不適合管理グレード分け(不適合管理委員会にて決定)

- As : 法令、安全協定に基づく報告事象
: プラントの性能、安全性に重大な影響を与える事象
 - A : 国、地方自治体等へ大きな影響を与える事象
: 定期検査工程へ大きな影響を与える事象
 - B : 国の検査等で指摘を受けた事象
: 運転監視の強化が必要な事象
 - C : 品質保証の要求事項に対する軽微な事象
 - D : 通常のメンテナンス範囲内の事象
- 対象外 : 消耗品の交換等の事象

(お問い合わせ)

福島第二原子力発電所・広報部・企画広報グループ
電話 0240-25-1353